

平川 眞実

所属大学：佐賀大学 経済学部 経済法学科

県内インターンシップ先：認定 NPO 法人地球市民の会

留学先：ヤンゴン（ミャンマー）

チェンライ（タイ）

留学期間：2017/9/5～2017/10/19（4年次）

受入機関名：terra people association,

ミラー財団



活動概要と成果

〇2017/9/5～2017/9/26、2017/10/15～2017/10/19

@terra people association

ミャンマーでは、国内フェアトレードに繋がる「地産地消」について学ぶため、認定 NPO 法人地球市民の会の協力の下、有機野菜の生産から運送、販売、消費の現場に足を運んだ。中でもヤンゴンでは、農村から運ばれてきた野菜を販売している「グリーンヒル」というショップで活動した。主な活動内容は、商品の販売や店内整理、お店に来て下さるお客様へのアンケート調査。自分の目で見てきた有機野菜生産の現場や生産者の想いをお客様に伝えつつ、どのような客層が集まっているのか、一般のスーパーで売られている食品との差別化がいかに行っているのか、お客様が商品の質や価格にどのくらい満足しているのかを調査することができた。調査を進めていく中で、①グリーンヒルにはヤンゴンに滞在している日本人や欧米人、比較的裕福なミャンマー人が多いこと②お客様同士のネットワークができており、口コミでショップの評判が良いこと③グリーンヒルでは、有機野菜生産者を訪れるツアーも実施しており、有機野菜の価値を伝えることができていることなど多くの気づきを得ることができた。

〇2017/10/7～2017/10/14@ミラー財団

タイでは、フェアトレード事業を行っているミラー財団で長期ボランティアをしながら、タイでフェアトレードが必要な理由や、フェアトレード商品の生産者である山岳民族の生活、ミラー財団におけるフェアトレード事業の実情などを学び、「フェアとは？」という問いについて考えた。長期ボランティアでは、はじめにアカ族の村でホームステイを体験した。ホームステイ先のおばあちゃんが作っている民芸品を見せてもらい、気に入ったものを購入することで、一番直接的なフェアトレードを体験した。また、竹でできている家に住む山岳民族の生活にもスマホ社会が広がっていることや、村に電気が普及されたことで生活が以前と大きく変わってきている現状も目の当たりにした。ミラー財団のフェアトレード事業

に関しては、伝統的な土笛を商品として生産している現場を見学した。生産しているのは村のお母さん方3人ほど。完成した商品は、ミラー財団内のショップに並べたり、日本の学生が販売したりしているが、それ以外の市場を確保できておらず、在庫を抱えてしまっている現状を知った。

日本発信プロジェクト活動概要と成果

○佐賀県重要無形文化財「肥前名尾和紙」で名刺をつくろう！

ー実行したこと

ミラー財団での日本語ボランティアにて、佐賀県の重要無形文化財である「肥前名尾和紙」を使用。稲刈り休みという長期休暇に入ったアカ族の子どもたちに対して、有意義な時間を過ごしてもらうため、異文化を知ることによって世界観を広げてもらうため、簡単な日本語を教える授業を実行。小学校高学年～中学生くらいを対象。子どもたちのリクエストに応えながら、日本の観光地や郷土料理、色、動物、植物などを紹介。授業の最後に習ったことのまとめとして、自分の名前、好きな日本の色、動物などを記入した名刺を作成。その際に、肥前名尾和紙の名刺を紹介し、佐賀のことも発信した。

ー成果・気づいたこと

成果：子どもたちは物覚えが早く、全員、日本語で簡単な自己紹介ができるようになった。肥前名尾和紙について写真付きのピラを見せながら紹介していると、「この紙、こんな植物からできているの！？」と驚く子どももいた。気づいたこと：子どもたちはみんな日本のことにとっても興味があるようだった。以前から日本語のボランティアがあり、ミラー財団での日本語教室に何回も参加している子どももいた。一緒にボランティアをしたタイ人のスタッフも日本のことがとても好きで、日本語の試験を受けるために熱心に勉強していた。そんな中、日本のことについてたくさんの質問を受け、自分もわからないことがあり、それに答えるために調べたりして自分自身勉強になることも多かった。そしてさらに日本のことが好きになった。

留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

日本で困っている外国人を見かけたら積極的にコミュニケーションを取るようになったことは、留学を通して最も成長したことだと思います。今回の留学は初めて一人で海外に行ったということもあり、留学前からとても不安でした。いざ、海外に出ると、慣れない土地、文化、言葉の中でわからないことばかりで、現地の人に自分から助けを求めることが必須の

状況でした。そんな中、自分のつたない英語でもなんとか聞き取り、理解し、親切に教えてくれる現地の方々との触れ合いを通して、留学の不安も徐々に解消されていき、言葉の壁はありながらも、コミュニケーションをとり続けることで仲良くなった友だちもできました。以前は、日本で外国人を見かけても、あまり気にしていませんでしたが、帰国後、日本で留学生などの外国人を見かけると、きっとあの人も日本で不安なことがあるんだろうなと思うようになりました。外国人に限らず、何か困っていて助けを求めている人に会ったら、積極的に力になりたいです。

あなたにとっての留学の価値

出会い（会いたい人に海を越えて会いに行くこと、留学先での思わぬ出会い） 見ること（「百聞は一見に如かず」というように、あらゆる情報が行きかう現代社会の中で、実際に現場へ足を運んで真実を自分の目で見ること）